

繪本豊臣勲功記

六編
五

2209
55



遠 13
2209
35

繪本豊臣勲功記六編卷之五

目錄

勝定勝之忠死利光水戰

属齋藤解身

明智諸士混屍相秀吉

属片桐射功

繪本豊臣勲功記六編卷之五

光秀過小栗栖被害亡民

屬溝尾匠首

明智親族臣家諸所逐滅

屬秀長奏聞



繪本豊臣勲功記六編卷之五

江戸 櫻澤堂山 編輯

勝定勝之忠死利光水戰屬齋藤解身

紅塵下ハ麗血を競ヒ。青史ハ鬼名と争小。驗小利と名と
ハ身命を殘害の刀ナリ。利未走るかや名小。道と晒せ名を
惜む故ニ死地を避け也。然ハ北方緒隊の烈將松田と叔
伊勢之枝。おひし小。誓死し。在川掃部。妻未忠左。蒲門
波ハ伯部權頭酒井孫左。婿門同與太。友倭各類。あき。戰闘
し。次取と小。戦死を。茲小。不思。強や。天も秀吉。分。軍。加
也。光秀が。悪と。憎む。小や。南風。忽地。吹起。波を。送。卷
碩と。花。せ。樹。の。青。葉。と。接。散。し。當。慄。頭。怔。懺。足。の。食



豊臣記六編卷之五



柴田勝定父子
 主君を零す
 後軍又踏出す
 我死する



悉く北子向ふ。ゆも埃も躑黒小。明智が陣へ吹蕩る。これ
 氣と得る羽柴勢へ呼び起喚さ。紀桐若も黒田の一隊
 峰須賀藤堂。青木も勇兵風小。宗も追撃をよ。宛
 極虎の千里原と。魁るも斯やと看怖する。這極奮ふ。款
 すべき力へあへく。這場那所小。退逼られく。遂に九分の
 敗軍となつて。二子餘人撃死す。然るも柴田源左衛門子息
 忠房の二勇十。主君と落し。自勢僅く百四十騎と魚鱗
 備へ踏留り。款を待。それと遙く看るよりも。何と毆捕
 せし。柴田と目的正一文字。推すも。峰屋出羽守頼隆も。
 よき獲物なるぞ適す。柴田が微塵と看侮り。千四五百と
 めつ。微塵とせんと。擧断てを報到す。素より期し。柴田

主従峰屋が勢強迫と句引寄せ。其際四又聞あり。候も
 眉庇と款と視後し。まらや蕞と一喝呼び。千草の菜子
 曲とる。強の血鏝と二之度拭去。あひの太刀と常面推蕩り
 及と整し。呼よ雜兵と目白懼を。唯大將と刺番。決も活
 づき時あらね。怒や棚やと呼をり。深溝も屈せ。勝定
 務之軍。峰屋頼隆。迫きよ。刺番へ。憤力極めて。款記
 くれども。多勢の款。隔て。容易く。迫づき。將さる。ち
 了。自方の兵士。大半毆ら。殘兵。僉。朱。粉。あり。憤
 實烈戦。まら。峰屋勢を一樓。二百餘人。ぞ撃て。投
 る。方。僅。身。體。粉。と。あり。各。緒。方。は。終。く。と。立。陣。の
 せ。ふ。死。し。う。し。の。將。率。も。不。極。り。り。活。る。拒。抗。を。な。し

書目言一ノ綱卷之五

(三)

隙。日向守光秀。自後勝純寺の方へ退きけるが。決るも
 本道へ通り得ざれば。比田。滝尾。倭の敵。一々。技獲。一々。時
 徑傳ひ小尾。道。一々。免くも。猶。法。陰。身。の。果。斯。ま。を。曉。く。も
 敗走。一々。北方の諸隊のあり。一々。只。着。く。と。隊。伍。さ。る。各。各
 内務助。が。一。隊。小。一々。南方。新。發。の。丹。羽。勢。を。強。く。も。堀。と。遊
 崩。一。既。二。羽。柴。が。旗。を。一。祥。倚。ん。と。あ。一々。方。機。會。も。天。日
 山。の。中。腹。小。備。設。け。一。堀。尾。右。晴。堀。秀。政。が。一。度。小。指。揮
 一々。ま。の。推。出。せ。し。り。勢。と。速。や。遅。一。と。二。隊。の。兵。士。天。日。山
 を。駈。奔。一。社。の。峯。の。才。腹。小。端。留。させ。休。を。九。段。一。部。列。て
 六百餘挺の發炮。言。括。く。敵。者。が。隊。伍。の。中。後。を。目。的。一。雨
 よ。霽。と。擊。投。く。散。く。小。攻。う。た。れ。ば。予。得。小。猛。き。敵。者。勢

も。それ。怯。く。お。も。た。げ。も。右。よ。ま。り。左。へ。退。ひ。兵。兵。起。を
 内務助。大。言。揚。て。自。方。の。兵。輩。當。の。敵。と。突。崩。一々。
 秀。吉。が。本。陣。へ。走。投。一。然。ま。れ。ば。山。上。の。敵。も。炮。丸。を
 飛。ま。く。自。中。と。得。ず。進。め。く。と。指。揮。ま。れ。ば。一。度。獲。氣。の
 は。ま。り。る。兵。士。踴。躍。と。り。と。丹。羽。長。秀。ま。の。接。返。せ。と。獅
 子。奮。迅。一。突。蒐。る。利。二。今。一。這。隊。伍。の。持。ち。ぐ。一。期。を。斷。り。
 後。士。右。左。の。據。不。ま。す。一。俺。們。父。子。が。猛。威。と。振。り。羽。柴
 神。戸。の。旗。を。一。殺。投。ち。一。大。將。と。擊。投。を。一。伊。豆。也。一。子。の
 中。も。謀。合。せ。証。投。ら。ん。と。あ。ま。と。一。筒。井。勢。小。敗。ら。れ。る
 大。八。郎。が。老。黨。二。三。騎。來。小。あ。つ。く。能。事。利。次。戰。死。せ。一
 所。相。を。考。へ。一。一。内。務。助。天。と。作。る。大。く。嗟。嘆。一。熱。き

豊臣記六編卷之五

洞と逆頼の織子千紗瀧さうけ。呼是罪もあやせ此の流
赤守が有とありき。明智將軍の命運も。磐石が根の敵
卵小芳る。先背憤の根と極りん。継げや利光兜の緒の
緩虚着をもぞ減整せと那方と略と視彌其。藤田信
房が一隊の兵士人と馬も血小泥まき。赤地小丘の花号の旗籠し。令の
かく。兵兵と南菟と。赤地小丘の花号の旗籠し。令の
自粹の馬賊と輝と。一隊の軍兵。藤田が勢を逆起と
追づ。遠くもわき。神戸侍従信孝あり。得るも赤
藤利二が望むところの大將おれ。遁しせぬと残兵の又百
をよりありき。すちちと。二百餘騎。丹羽が隊伍と喰止
させ。二百の自隊と翼隊とあり。水無瀬川と西へ向けく。

推波さんと馳んがう。あつとも遠川の小流中々。常玉流き
深あれども。累天とる霖雨。水勢揚りて岸と渡り。水
色はく底着えむ。川と睨で動ゆるところ。神戸方の
陣中より。赤く抹漆する馬皮の覆り。突兜の緒を堅く緘め
白き毛の馬小白磨の漣混とく白藜吹うせ。大太刀掣り
河岸。駒の四漏と直柄と。北方小向く大太刀揚げ
是は尾州の信人門磨民部が後流野に指す之座孝重
とつ小者あり。河と溝一當の款へ。赤藤利二あり。故も
故主君右大臣殿と。弒せし逆賊の黨類も。遁まき下り小
親会せと。隻轡は松と川小馳投り。積水跑とく臆せぬ
風情款へ。維どと看る際もあせせ。赤藤が次男信孝と利光



豊臣氏六兵衛卷之五



みみせがハ、リと見
水無川は力戦と
奇敵何巨也
の、かこひこのが
野垣を、出と
敵投る

豊臣氏六兵衛卷之五

五

享年僅十六歳陣頭小馬騎中。現森せんと呼たり。利光
 當日の松髪より八十四の星高くあつる。頭撲の体の筋兜
 二。袖草摺と烏翹と織りたる。白檀磨の鏡と名。十五頭
 の肱甲臙盾鬚懸うろ尾の毛すも。墨灌きたるむりりの
 驥馬舟。濤菟地の鞍を安き。紫金象眼の澄踏張同く
 草騎のり出ま。武者相といひその骨路險。英雄の胤と
 そ着えり。時小彼。一兜と脱る。後者小齋せり。背
 かろ髪拵拵ひ。雙拍入とそ河水。馬と漣波と拍波より。
 送り。白瀬踏起跑起逆づくま。呼声絡。太刀お合せ
 東西天地洞と献まね。又背に駒。又お六お挑。一が。
 水中といひ馬よといひ。太刀絆さく自由あり。伊豆守を

かけ。倚や力事と呼たり。望むところと度之。馬
 控倚せり弓と舒。伊豆守が袖緊と捕る。利光す
 去りも身と動せど。徐くそそ太刀と鞭。小收り。藏傳を
 舒く野と垣が。綿嚙搏で引寄る。その怪力小彦之。野
 堪止らば馬人糸一。鞍の糸梅小拵着らる。野と垣も懸
 者るれ。瞬さへ胸とく。雙方力のあつる。小勇と
 極め。揮命が。鞍が根たれ。わらわの腰踏らせ。わらわも。
 河の新波と落渡り。危をなるとなり。他軍自軍。東西の岸
 一。龍噪。あつる。森友か老黨輩。轟起。伊豆守と助
 かんもの。河中へ投らんとまると利之。声うけ。やと鄙怯あり
 過つる一騎。あつる。勇士の對戦。他の救ひ。不圖。て。響得たり

豊臣評六編卷之五

六

とも功名なきは。利光強くは得得ある。弱くは欲く得る
 あり。月夜助か子とあり。存命あるとも。益なり。這候か
 く看殺しふせ。強く助え。輩あり。汝候とも。我候あり
 すと。師子の其呪と。奮りも。斯くをあり。雄くは。听由。這
 一言。小恥しめられ。自方の。神戸の。会士も。水底。腰看
 獲り。在る。流水。百轉。せぬ。ひき。小。碧。と。看え。方。河水。の。忽
 地。変。り。て。廬。紅。小。流。出。る。色。と。見。る。より。危。や。い。何。れ。が。撃
 ち。し。を。と。拳。と。振。り。序。液。と。吞。み。瞬。も。せ。ぬ。岸。に。視。極。る
 河。の。中。に。帆。と。浮。る。赤。藤。利。光。之。首。が。首。と。左。より
 搏。ち。さ。る。が。乖。龍。の。兩。肩。像。く。一。躍。し。北。岸。へ。登。着。む。を
 父。利。光。の。中。も。更。も。連。い。づ。老。黨。を。或。は。歎。喜。或。は

嘆。賞。利。三。手。自。中。く。り。利。光。が。顔。小。滴。瀧。る。水。と。拭。き。股
 業。を。させ。先。や。神。戸。か。目。と。醒。させ。んと。赤。藤。利。光。之。子。利。光。河。水
 小。馬。と。一。足。綺。投。大。喜。な。小。是。は。明。智。將。軍。光。秀。也。元。來。一。家
 の。親。縁。ある。赤。藤。赤。藤。助。藤。原。利。三。同。く。次。男。伊。豆。も。利
 光。なり。神。戸。敵。も。俺。們。父。子。が。首。提。し。今日。の。功。と。達。られ。よ
 俺。們。も。亦。神。戸。敵。の。首。と。只。今。の。や。う。けん。と。呼。ぶ。る。勢。小。波
 動。く。せ。一。渡。小。組。と。何。と。流。り。て。金。の。手。杆。と。的。と。や。奔。馳。走
 虎。の。猛。威。と。我。一。信。孝。の。隊。伍。へ。破。り。投。る。これ。は。隨。小。士。も。年
 も。主。と。學。ぶ。る。勇。氣。あ。わ。ね。二。百。む。ろ。の。微。勢。と。い。ふ。も。強。小。春。山
 と。崩。ま。ぶ。く。當。り。海。ざ。ね。侍。従。の。勿。論。從。士。も。一。途。才。也。も。遮。り
 ぎ。東。傾。西。倒。し。天。足。地。首。し。これ。お。れ。と。敗。走。を。赤。藤

豊臣言六續巻之五

孫利三父子
激動しく神戸
信孝が陣勢と
追放也



父子の餘人目つけ。只信孝を撃んごものと。翻電の條く走
 薨り。免ちや咫尺の隔つ際。信孝後命まじく看ゆると
 進士かりき津田丸内同又義九右より伊豆守小督も
 免る。又於源義松井新助拓植表八舟同喜九舟は珍
 一様。内義助一擲く薨ると異もせ。源の経先と長
 短く。若後右と斬く落し。瞬がぬ際。源義新助二個と
 四片小報割を。これしも怯まを拓植兄弟。源の棟投棄力搦
 着と。只一擲中と搦ぎ。這方表亦義友利光津田とた
 右小督合せ。二打三打も際もあ。た内とたも。破て落
 返る。刀小又義も斬割んごある。そのとろく。平多兵八舟の
 と呼たり。突出を。源先搦搦。突と引寄せ。首切。其

この。源の落花と獲少。ことある。血潮ありと。勝
 々。這際。大将信孝の喘ぐを。り不逃道。利之利光
 對敵あり。拓植喜八舟同喜九舟。平多兵八と破倒。其も
 戦絶。ちやあり。人。眼。遮る。敵。あわ。破。起。羅。伏。可
 傷。直。面。不。回。六。七。町。進。毒。り。か。つ。つ。を。侍。從。は。更。り
 款。率。一。人。口。方。不。看。え。ず。掌。て。亦。自。方。の。ま。さ。合。戦。死
 一。父。子。不。随。よ。の。あ。わ。れ。が。利。三。馬。と。騎。結。め。伊。豆。守。と
 密。と。願。つ。其。方。疾。へ。負。さ。る。や。と。殉。や。く。同。と。利。光。を
 小。子。へ。遺。書。も。負。さ。る。父。子。の。あ。わ。れ。を。願。と。傳。て。慰
 む。る。以。内。義。助。亮。示。と。笑。ひ。不。得。父。へ。老。甲。を。わ。れ。疾。を。負
 ざるも。理。を。わ。れ。某。方。の。初。戦。め。し。も。無。類。の。合。戦。せ。ら。ち。も。

豊臣記六編卷之五

野々酒と撃投をせん。幕代未聞と習つべし。浩る數千の飲
 中と欲脱をぐる。浅藤も負ざるゝ貴きべし感ずべし。
 してく父が良味奥人馬込づけよとひまきふ。腰る靴取出
 一。汝もひまき知ざるべしとこれ小貯へし人蔘酒。父蔘より
 汝が運と得るゝ密小持齋せり。汝が腹茶せられよと掬水
 庵と若小興かれ。利光酒一。父が酒を密と視行。其小
 義流くすも。最茶の腹茶をひし。今亦浩る茶酒とす。賜
 大恩養生と。經るまを被ひよとまらるとも。大海の一粟中も
 及ぶま。然る小俺們父子をみるゝ。這戦場小向小初顔
 より。活べき所存いあり。と。服茶せせむ小決心。平生
 小似げあき父の心中。それ腹茶の用とす。身命と捨

小子へ服茶せせむあいのゆめと。同をねし利之姿と誓。我
 出陣の初より。生死と主君と共小せんと。毛然る小將軍光秀
 へ這地と遁れ。勝徳寺まで落さむ中と所と。坊とや
 父子も汝も。一片の旗とも負ざる。天這父子が命と加護
 く。光秀の運と持せしむるなり。我這茶酒も其駒と斟て。運
 命とて醒醉あ。む。今日むと命獲るま。羽柴の隊依
 緊くね。切く。任意の運。一。後這場と遁去り。討敵と
 待く討をん。然ら。おのん。やと。の。利光呆顔小父と視て。
 斯いあんといふをわ。わ。ぞ。君山崎の戦場と。遁れ。五
 所つれども。所先途の程をわ。わ。わ。尚光秀生言あ。わ。わ。
 の身とて。寢くと。活和と。曝さん。秀吉が陣小欲投り。

豊臣記六編卷之五

戦死するを本意なり。この期に未練の所為せんより。子
 父不継。黄泉の道路の惑掃らん。鞭撻操馳出ま。と
 やれま。利光。その頼みの玉あり。今日此地の合戦。不
 最初より斬るをあら。思ふと廻ら。光秀へ。異論
 諫言す。と。容れ。傾く。沖運。諸勇士多。滅
 す。悔くも返さ。不。不。俺。戦死
 さ。羽柴秀吉。地。国家的棟梁。と。に。海。と。無
 面。死。と。徹忠。と。濁。さん。より。生。大義。と。遂。ん。去。如。ぞ
 ず。幸。不。父子。一。寸。の。瘡。も。只。唯。這場。と。落。道。で。毎
 び。光。秀。と。補。佐。し。ま。せ。本。意。と。遂。く。誠。忠。と。全。ま。す。と
 理。と。獨。く。統。着。る。れ。有。係。少。年。驗。不。も。と。同。意

と。此。と。這。場。と。落。道。の。さ。ん。何。方。へ。死。と。解。さん。や。と
 同。と。利。三。這。道。と。親。子。一。糸。不。継。束。せん。宣。く。は。我。の
 幸。倚。の。方。へ。落。あん。汝。い。これ。より。場。へ。お。も。れ。鳥。院。師。の。次。高
 右。衛。門。と。孫。と。利。三。が。情。と。加。置。され。二。公。あ。き。不。存。を
 察。減。れ。り。蚤。く。那。方。へ。零。行。べ。然。く。后。時。節。と。待。て。本
 意。と。遂。く。と。さ。ま。ぐ。不。教。訓。く。騎。別。と。や。り。有。係
 不。恩。重。の。血。脈。不。繋。ぎ。公。猛。ある。内。藤。助。も。漫。漣。沈。け
 る。が。利。光。待。て。と。呼。止。縱。今。本。意。と。遂。く。も。を。や。再。會。へ
 稱。す。今。生。の。對。面。これ。限。り。か。ら。せ。經。過。へ。を。ま。す。さ。だ
 父。死。し。と。聆。と。も。よ。く。と。堅。固。せ。よ。意。と。遠。く。廻
 ら。後。世。の。笑。と。受。べ。心。入。り。や。と。瘡。復。く。離。別。惜

けり看えられ。伊豆守気色と誓。軍陣に妻子も
 忘る勇士の義氣。胡や治る大事と改命父子の情不関り
 あり本意と遂んこと意洋なり。まや所辨別と一語。馬
 騎斬る利光へ。踪影も知れどわたりたれば。我子あぐも感
 ぞ。と利三心直懐。山崎の地を馳去り。

明智諸勇士混屍祖秀吉属片桐射功

華岳の鶴其雛のつら。擒とある。それ計のむらん
 今齋藤内益助が為とらん。自己ふよく憂う。然して
 兎と加復。とらふ一撃の疑和。久逢とも。素死を怖れ。と
 這戦場と遊ふあ。兎をして活路と出さ。えんと。巧言
 とめて討るあり。其ハ圖さ明智日向守光秀ハ比田帯リ

溝尾を急ぎ。小投け。強硬あり。弓路。款の性素
 せぬか。と。下植野。つ。出む。久見村の極。北へ走
 こと十町。馬と躍らせ。む。川の構と跳。猶大
 溝のあり。比田。溝尾。進士。将軍。還。せ。む
 玉。疾。呼。城代。宅。藤。兵。朝。防。納
 梁。比田。溝尾。右。投。城。下。投。要。時。が
 和。と。休。息。し。り。
 備。亦。山。崎。の。戦。少。羽。柴。筑。守。秀。吉。明。智。光。秀。が。敗。走
 せ。し。り。後。伸。小。周。素。知。し。り。筑。守。植。と。然。と。諸。將。し
 令。と。傳。て。曰。款。將。奔。走。と。あ。れ。戦。法。と。虚。実。あ。り。急。小
 蹟。と。撃。と。い。示。候。も。ま。ご。ご。仔。細。小。心。と。用。意。し。り。と

叔く妙く小指揮しむひが眼も通當せし事ありも。退逼も
せで其采ふ棄措む小胸へ凡人の及ぶる所為なり。り
然るも小羽柴殿へ水多瀬川とうち流り。本部の諸勢と
督領ト山崎が原の戦場小まられ他軍自軍の血糞と
濁をり。意逆賊の一軍小起り。惜しき兵士と後しく。殺
しつるんと天と作ぎ地と叩き。嘆息するると志をくするり。
茲小明智の勇將。明智十郎左衛門村上和泉守。奥田宮内
坂。紡糸彈守。山本山入の又個。軍功多き達人なれ。唐疾
へ多く被ると雖も。今ふおの戦死せむ。遂に助けの掛け
られ。當懐あど。捨抛弁。敵小混雜く在るも。全く命の
惜きふあらむ。幸希大將秀吉よ近づき。決ても死むべき

身なるものと。刺番へ死あむやと。又個等しく。相合せ
砍倒され。屍の中。小東西混て。伏頼び。息と忍んで
竊在る。浩るるとろく。筑前守旗本の勢。小指揮をなす。
緩急の回と料理て。免れも。又個が。歎死あする。血場邊
く進せられ。ね。明智光親と初と。村上。奥田。坂。坊
山本。方儀を本意と達する時あり。吁。嬉しやと。潜る。穢
小天然。妙智の秀吉。馬と。溜めて。部原の。地方と。儼と。覺
彌。一。む。つ。當。目。へ。六月。十二。日。あり。て。暑。氣。必。と。並。が。お。と。し。
星。く。つ。る。鞍。の。あ。り。より。陽。相。立。よ。る。と。怪。し。と。お。ら。れ。吁。呼。
う。一。記。事。こ。そ。あ。れ。絶。命。し。つ。る。化。軍。自。軍。の。鞍。の。上。より
陽。息。難。る。人。使。事。わ。ら。ん。様。穿。試。よ。と。命。せ。あ。る。お。ぞ。加。藤



明智の諸勇士
教骸を屍として
荒茶ちて
吹らん

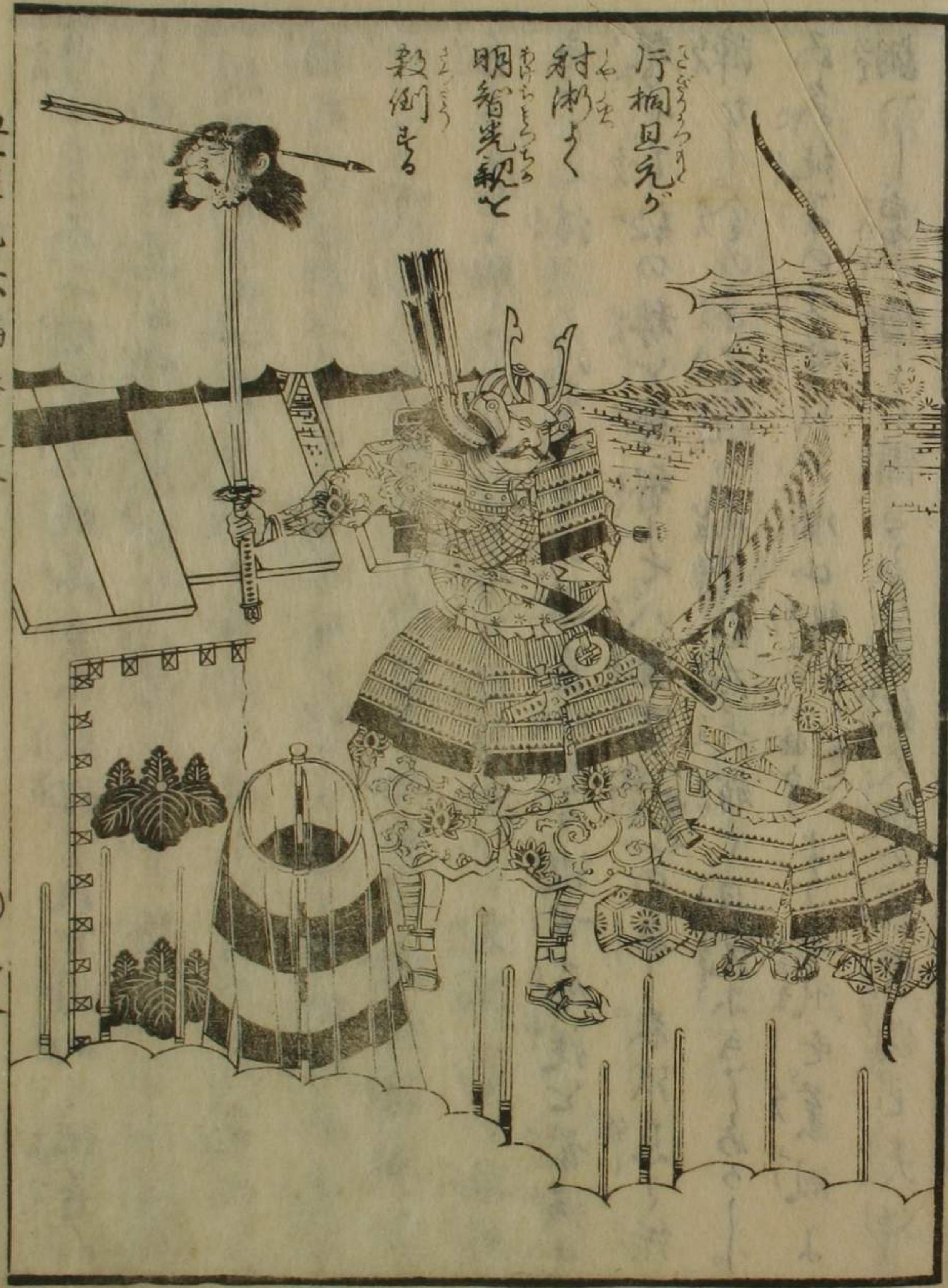


豊臣評伝 卷之五

福島脇坂糟屋平野が門に、陰捨俤て那地這地と、屍を
 一と擲貫く。跑返して、踏躑加去る。叩着、次第に、不穿撃を
 しける。小を、方儀、小不堪が。山本山入、破と、鼓起、秀
 吾目的、突、蒐、と、脇坂、其内、速くも、陰と、鼓き、落、所也
 そこ、擲伏、首、擡、す、ところ、奥田、文内、が、呼と、一、勢、起
 揚、よ、と、着、隠、も、なく、跳、着、んと、す、と、平野、控、平、横、より
 呼と、一、喝、と、右の、脇、より、胴、底、火、血、と、放、ぐ、と、擲、貫、く、り。
 紙、訪、飛、彈、守、盛、直、の、履、罹、う、と、鞍、と、投、去、秀、吉、覚、悟、と、一、鼓
 叫、び、斥、邊、の、陰、と、捨、り、と、や、擲、く、蒐、と、市、松、正、則、俤、と
 る、の、陰、と、跳、で、出、去、つ、ん、と、紙、訪、が、陰、突、擡、退、突、と、走、投、く
 左、頭、と、擡、着、右、俤、と、盛、直、も、陰、擡、出、く、擡、合、け、る、り。

大力、無、双、の、正、則、小、及、ぶ、き、く、揮、胡、され、瞬、下、小、首、と、削、落、し。
 猶、其、邊、と、突、遠、り、が、村上、和、泉、守、行、重、の、肩、髯、と、く、り、小
 彌、貫、くれ、堪、得、され、陰、捨、俤、と、同、前、小、之、と、糟、屋
 助、右、俤、武、則、不、突、蒐、る。武、則、下、陰、お、合、せ、雲、附、挑、と
 戦、ひ、く、る、が、必、死、の、村上、怒、力、と、擡、ひ、激、波、の、艦、船、と、列、長、の、儀
 く、暴、風、の、喬、木、と、擡、不、似、と、擡、奮、と、頭、一、喚、叫、で、突、殺
 する、小、ぞ、不、得、の、糟、屋、相、挑、う、心、危、少、着、向、と、櫻、井、左、右
 後、顔、と、村上、左、右、の、脇、を、腹、巻、掛、殺、馬、と、斬、られ、擡、怯、と
 と、ころ、へ、糟、屋、焦、燥、と、劈、面、と、太、刀、も、折、れ、と、刻、下、られ、遂、と
 首、と、を、投、られ、ける。然、る、不、明、智、光、親、へ、猶、これ、ま、ぞ、よ、く、堪、く
 左、の、額、鬘、と、彌、と、け、れ、る、も、更、不、動、く、ぞ、在、り、け、れ、る、突、と、死

徳川紀六編卷之五



尋ることろ不明智光親不意不致起。これと目的て跳着ん
 ず。咫尺の隙子呼不思議や。八幡の方より斯の如き、白羽矢
 一枚飛来りて。十郎左衛門が眉間を射し、ゆゑ乃前免経を
 遁れり。これより、筑前守どろろ、梁が首砍投。是を
 正しく八幡の意護なると撃揚むべ。諸將雜率、
 走るまゝ。驗みく、君天令成保ちまへる名將あり。感服
 まつこと、法りく。それより一騎當千なる、進士扈從と前後小
 撃せ、本朝の勢と都督して、八幡宮雑宮のの華表、浅東と結
 陣なり。金の子生軌の馬標を、西天輝く日光ふき、めり。
 又久純子の吹雪、八幡山男山の八幡ありより吹風屯。薰風よ
 翻へ、常く相と備へる。天然大物の雲量、願と天神

地獄も威と添く。夜復あると怪しむたり。驍才かりけり
 所相かり。

光秀過小栗栖被害土民 馬溝尾匿首

竹の直中々増清。何ぞ其曲まると。濡れるを容んや。
 金戈日不動くの古吟もあね人々刺も理致。然る不日向
 守光秀へ。後純寺の城不投ト多。城代之宅保朝へ。哺食
 たり。成懐めその中。這勝純寺へ。後攝り。大將の御勢
 徹さ。不妻持かりとも。在ること。宜か。はらえん。一應
 坂本へ。御帰城より。然し。御軍。萬方。愛おし
 ます。べく。後隊の俺們より。索かん。杖。御辞去。し。浦也
 と。諸士。一。不。進。む。を。日。向。守。も。実。不。も。と。か。り。ひ。村。城。

三十所景別津田與之舟澄明進士他左衛門秀虎比田常
 刀則家僅尾左兵衛朝用田太尉八武章這個く小
 又百餘人と跟從へ其夜の雲中るる當天月の朧不路
 と求りて勝竜寺の城を後背不肴流し弱の躑躅も神
 足の名もつれく行桂川月の影も公懼く零落歩速き
 下鳥羽や竹田小波も高瀬さく蹠踏行深草の雲ハ憂
 身の躑躅もがふ八科の登下越性ハ呀怖や小栗栖ハ滅
 の蓆といハ文字の意と合む巷をとも細らで當過天色
 風も自然と悲哀不光秀後を脛も勝龍寺と出るところ
 へ又百餘人と肴らうし不おのしく不落行く鐵石心の義士
 忠率三十餘人不足ざるり東福寺の鐘のや幽不聆て

寂寥と指かあし算は十指と二株強しう又その中
 夜過也有りける。怯昨日か今日生をも天下の武將と呼
 れし身が都く足さへ容がく窶しき漂落士とあり。時怯と
 すつき軍とてん又七人よりささるりとあつらひいと雄氣も
 折け夜の曉ぬ回不坂なくをむをやと馬と廻り南小栗栖
 不當仕る。這里色の岡使軍日向守と不知らしども。今日
 山崎の合戦不明智が軍勢敗北しき漂零なる不替投て
 出さる褒賞あまざれし。夙不傳听しう。世間の乱は農業
 さへ金りさる田丈野席。これ替投て獲幸不せんと長濰竹
 檢も不く提げ八科の段の東より。足並攪して發起喚
 叫く突免る村紙早くも声うけ。是ハ羽柴殿の自中も

豊臣記六編卷之五

十九

急不迫之行とのあり。森忽をさるる後悪らんと欺け
 ともあつ用べこそ。黠くも誰くものる羽柴殿の人こそ。
 道小もあつぬ邸巷と通らる所縁なり。明智敗軍の零
 落士小遠ひあつト怒止よと罵りつても數百の農丈竹法
 標吹紀威多棚小競竟と進士村誠用田依。叢叢の群整
 ともあつるに角八面小破散を。這勢威小あつるに遮へん。
 凶を驅せる燈の待火小退る魚味く。右横左横く逃
 教と。然とも熱極るる里あつる。這の叢底那の林心へ
 陰定陽首。道路以妨。溝尾が主と護助をね。村誠進
 士比田用田へ踏留く追退く。漸く中へ邸家誠難と。
 一叢茂る管林の管徑穿く馳通る。落小小栗極村の郷と

恣酒を中村長を掃との者あり。平生心の黠くをね。周史
 これと孔明そと登壇るる。這遺明智日向守山依合戦の
 隊仗敗きて。漂零士とあり流轉風貌とよき獲擄く。
 秀吉の腹安と奉人と心の黙算流く化とる竹槍の長
 八九尺もありぬると。骨助小槍抱を走む。その脚小碎落る
 へ零落士小もやと。同窺て視れ。それ小あつる。仗家の時養
 燈とあつ。掃く。逃る。切。當強き終羅鬼類被獲踏
 より極り。と。町。長。公。湯。嘲。嘆。ひ。各。悔。ハ。智。恵。る。見。擄
 ら。を。ま。れ。鬼。神。中。も。せ。し。運。尽。く。漂。流。身。る。明。智。を。從。る。小
 ら。どの事あつん。然とも有活。暮る。あ。過。失。を。つ。き。小。那。を。こ。と
 看。小。那。叢。陰。を。究。竟。の。仗。兵。ま。つ。き。所。な。れ。零。落。士。輩。ハ

中村長房



中村長房
光秀と
将んと
小栗栖の
管叢又
待汝く

117

中村長房

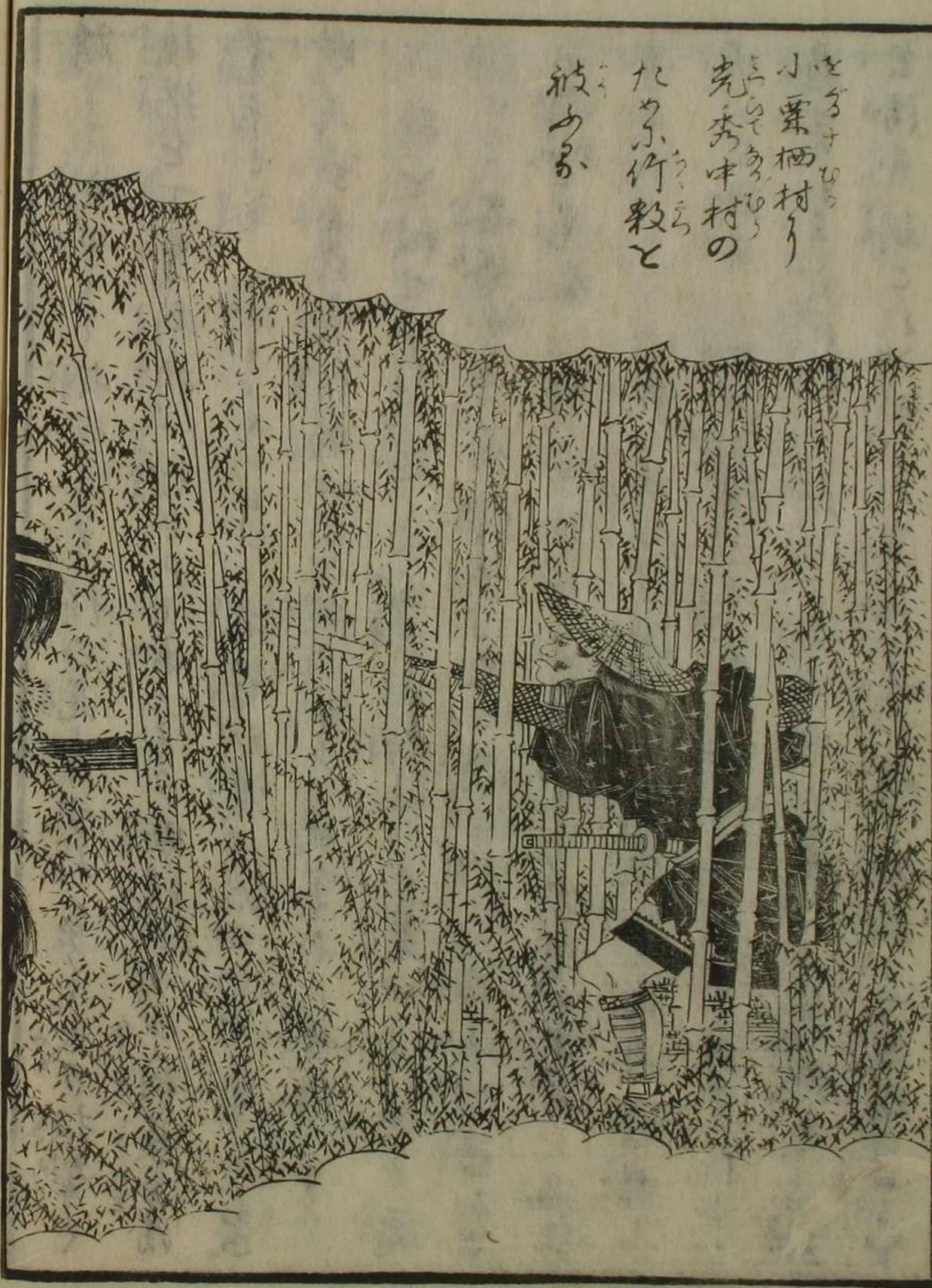


118

只願小路と名づく心印をせし。黄の中身を穿窺へせむ。時日
 取りの狭石橋。儒掌小栗の程より。獨負多き黄令の夜更。
 高分せん。母もやまれと。十四人の壯士軍と。驍り懸す。竹槍の
 こゝ実との。後刺をすねと。竹槍二三度。平剛つも。首着の箇へ
 備振る。刺とも。切し。明智自後路。赤く。移る。一撥。單と。右性
 左性。斬散。漸く。通れ。北小栗。極。移らんと。さる。後竹の
 間道。海の。さる。之。潜。を。せ。驍。突。と。速。り。通。る。と。さ。る。等。級。け
 ぐる。中。村。長。兵。衛。竹。折。曲。く。背。腰。と。篠。疊。せ。一。際。際。より。
 續。月。影。小。間。窺。る。その。變。様。の。麗。し。く。は。足。こ。そ。大。將
 光。秀。あ。ら。通。り。や。ま。る。と。持。つ。捨。の。竹。も。汗。か。け。絆。不。極。り
 腕。の。力。の。あ。ら。け。け。杖。極。め。突。發。を。突。突。尖。へ。膳。籠。三。尺。胃。の

腕。を。刺。し。廻。り。廻。り。不。得。の。光。秀。突。れ。あ。ら。太。力。投。擲。す。
 檢。索。を。丁。度。斬。折。一。續。小。又。十。歩。を。り。駈。脱。す。中。村。長。兵。衛。
 莞。尔。と。笑。ひ。做。る。や。つ。う。と。亦。存。び。叢。の。外。の。面。と。看。る。ら。ち。小。
 騎。馬。武。者。の。食。行。過。ぐ。れ。が。棚。止。す。ら。ん。決。定。小。大。將。斯。す。ぐ。
 深。痛。と。被。せ。と。れ。が。遠。く。い。馬。上。小。持。と。れ。を。叢。と。傳。へ。し。續。
 施。ゆ。ん。各。條。か。あ。ら。ず。勢。奔。る。を。情。く。却。り。續。進。行。然。れ。ど
 小。明。智。光。秀。い。又。十。歩。を。り。落。通。け。ら。が。方。後。ハ。馬。上。と。落。り
 得。を。鞍。か。上。り。腰。と。落。し。ば。薄。尾。村。越。進。士。も。借。ふ。ら。ち。駈。と。こ。
 馬。より。跳。却。二。個。が。六。臂。小。主。君。と。抱。起。し。も。ば。り。め。さ。れ。し。
 度。事。なり。と。同。倚。る。顔。と。日。向。守。眺。と。看。行。く。驟。斷。なり。度。
 雲。霧。辰。朝。これ。と。試。よ。と。溝。尾。が。と。と。拉。り。脇。膝。より。脇。脇。の。出。ら。と

をさす十ひの
小栗栖村より
先してあまひの
たふす竹敷と
彼ゆふ



披らせ。活る痛癢と彼一身の故本をわしむと社を恨念
 なか。這地ふく生害あまふ溝尾茂朝。片時も速くふ首
 撃く。妙心寺小齋てすあり。陀毘所の灰小成得させよと聆て
 庭を汚悲涙と吞吸斯い所が弱き所定くる。大津へもや程
 幾。今暫くと休へ玉へと練むると光秀つらね所容ぞ護と
 脱んふよく看むと上帯解せ綿嚙もづさせ。胸を脱毎抱合
 する。畳紙と括出。柄硯と筆と濡むせ。辞せ小四句の偈
 を紀書

逆順無二門

大道徹心源

五十五年夢

覺來歸一元

決ても室小対面なる手ト。這句とゆつと傳をといひさす

戒刀掣持く。腹へ破と搦をける。精神そそり力及る。首の
 とのふも断く。溝尾も今に給ふて。其候劔断か。撃んぬ。
 光秀行親又十五女あまつりくると持。

明智親族の家緒所遂滅 属秀長奏聞

喘喘衰来れ。遂小騒懼小苦楚。是精神の脱まふ小
 あまの夜。明智光秀將軍とすを稱へられも。もろろく去民
 小挨拶せらる。然るも小溝尾庭を汚茂朝。悲嘆やるべ小
 かりといふも。主の遺命被せられ。這地小死ぬも死教せ。あま
 も主人の首と。肌被の袖小抱單。妙心寺小葺らんと。佛國寺の
 山賊。狼谷を落適う。然るも小中村長を汚。光秀自害
 の所と決絶る。不機隘小溜る存。魂涙を瀧ふその際。

ちやくも各自殺しなれど。まゝありと指揮なり。嗚呼
 で躍出。それ首加よ甲冑脱せよ。これ溝尾が蹟退覚ん。
 續けやつと叫ぶ。喊と作り竹法螺吹起。佛國の山へ
 退登る。底を踏も方候へ落る。路なく。これ中でも蹟慕ふ
 て。眼送る。翠履與七郎との小者と晒り。汝へ小郎小似も
 や。ま。よくこそ這所を。眼送ひしを。汝小時む一事あり
 之君の所難逢と。こが辨印とと齋行て坂本の城小至り。
 始終をつとふ。不傳言せよと。警破く。光秀の遺物。各一与
 七郎小迹ふつ。北の山際へ去。皆穿ち。自君の首と。うら
 瘞め。早く。須肌露して。肚搔刺死うけける。其七郎が止
 む。跡もあき。うらね。死骸小括着。熟く。やごこそ。一撥軍

ちやく退る。音のしけれ。溝尾が首と解。際なく。そのま
 那地を。蒸遁。うら。然。而。小中村長。会。湯。へ。狼谷。ま。を。た。き
 着。る。小。溝。尾。が。死。骸。あり。うら。ゆ。な。手。炬。焼。さ。せ。うら。く。着。れ。ど。
 新。小。去。を。穿。つ。る。痕。あり。こ。を。決。定。小。最。茶。着。し。る。金。の
 括。搜。の。蹟。の。勝。小。首。が。死。骸。の。あり。け。ら。大。將。光。秀。と
 ち。ひ。が。同。家。輩。の。所。作。み。こ。を。手。持。き。来。く。瘞。や
 あ。ん。と。土。穿。返。ま。く。深。く。も。あ。を。一。の。敵。と。揮。り。得。し。う。は。
 これを。正。しく。大。將。光。秀。の。首。あり。うら。と。溝。尾。が。首。も。共。小
 欲。取。流。の。水。小。これ。を。洗。ゆ。伏。家。の。輩。と。待。小。程。あり。開。田
 進。士。比。田。あ。ん。の。首。と。それ。く。掻。破。く。竹。槍。の。筈。小。突。鼻。つ。も。
 こ。ゆ。め。来。集。り。な。れ。ば。倉。森。一。小。打。連。て。羽。柴。殿。の。所。陣。ある。



豊臣平八郎編年記

二二



豊臣平八郎編年記

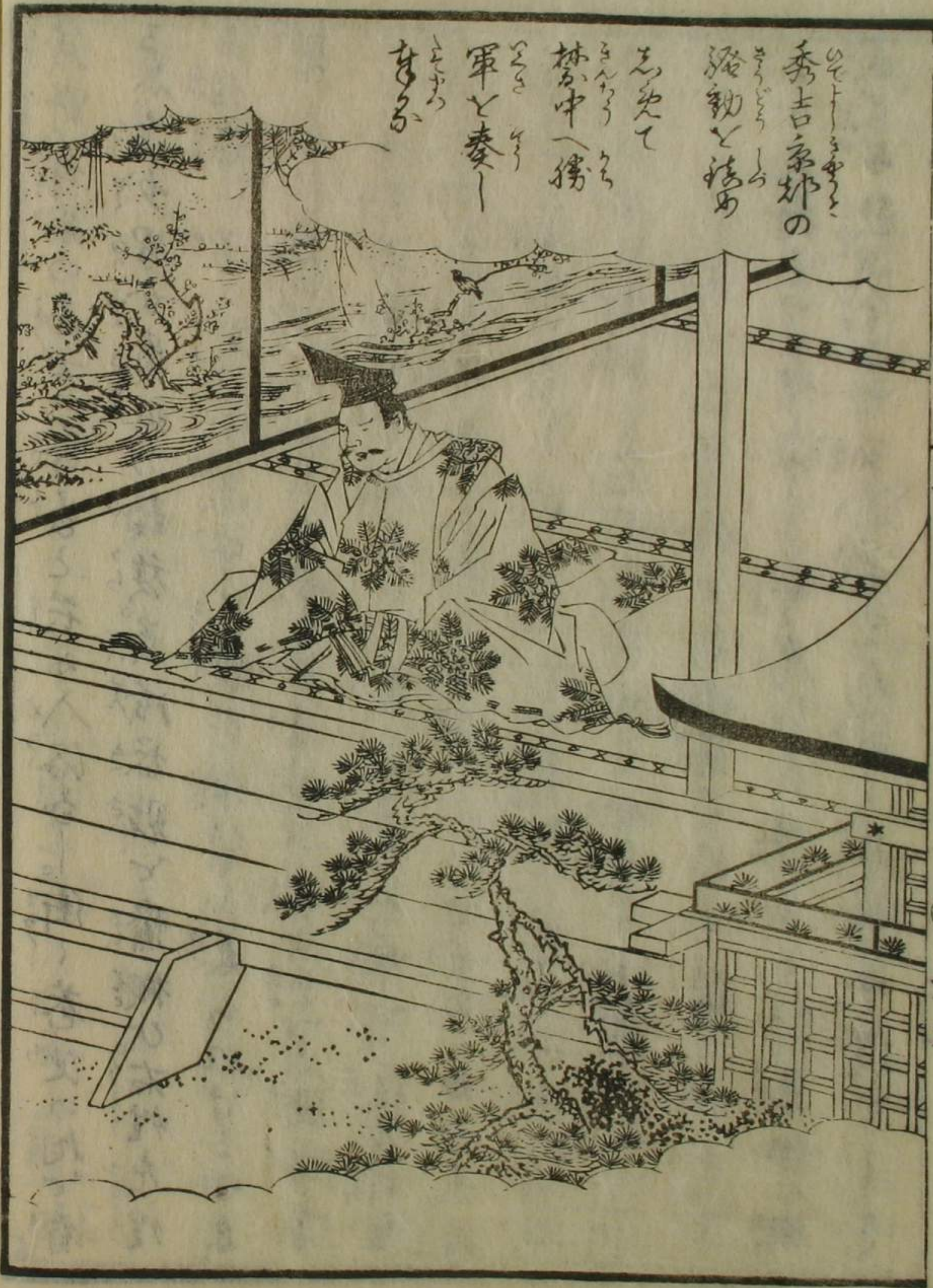
二二

三井寺つを泰候しける。以時海尾庄を協平三女進士也左 後小夜止
 あり一結あり。光秀が嫡子十兵衛光慶享年十四あり
 けるが。器量勝る少く覺も亦賢りける。是れは卯月の
 初より。龜山の城に在り。風邪の気味少く病もなかり。後少
 基重りたるゆゑ。系より名醫と數呼倚せ。さきより藤治は
 けり。あつた。微強ハ杖氣の相あり。今月二日父光秀。京都
 へおのり。信長と弑逆し。侍更帝都小旗を乞ふ。天下に執權
 せらる。光慶これを恥と印し。疾病忽ち再發して。
 苦惱するを印とわさか。次取小重り。十二日の夜。光
 秀小栗栖よ生害せし。時と遠く。命終せし。最怪し。身
 り。事なをまり。光慶が後見強。又舟を傍惟。植は。至

君父子の死去と悲し。肚極刺し殉死せり。行年又十一歳なり
 こそ。同し。這城小妻は七右衛門範之内。藤三右衛門忠次と
 り。小者あり。光秀小栗栖の最期を恥。髻掃く僧と成。
 至君の菩提と弔ひける。然るに。羽柴元就守秀。吉。十
 二日の曙。小指揮を傳へ。筒井順慶と大将となり。峰を
 中川。冷川。高山。これより。小二万の兵と授け。勝龍寺の城を攻
 させける。城は。明し。二宅徳朝。益川八助。中沢豊。後守城。
 と二百餘騎。出死力と奮り。血戦なり。進兵八十
 餘人と毆。二百餘人小傷と被せ。自兵も一百又十餘人戦死し
 たり。二宅。藤三。兵。傷。纏り。城。小。入。四。方。の。寨。樓。火。と。放
 ち。各自害し。落城せり。這城攻と。同し。時。小。秀。吉。舍。身。小。一。郎

秀長小命ト。これ。後野孫兵衛。青木勘兵衛と別られ。此地
 小京都へ登せ。い。縁。秀吉勢。怒。う。菊亭晴季。解。り
 統。奏。聞。す。く。這。般。山。州。山。崎。小。お。い。き。運。長。明。智。先。秀。と
 只。一。戦。小。勢。敗。り。そ。れ。が。悪。徒。も。數。を。尽。し。斬。首。一。果。ぬ。
 張。本。日。向。守。小。お。い。き。い。ま。ど。生。死。を。知。り。ぎ。と。い。く。も。時。目。と
 移。さ。せ。摺。控。さ。す。べ。ね。帝。都。安。全。さ。う。く。用。く。敵。軍。安。り。さ
 づ。く。猶。お。い。き。天。下。泰。平。の。慶。賀。と。奏。し。さ。す。ま。つ。る。べ。い。因
 先。達。明。智。退。伏。の。論。旨。と。い。て。怖。ひ。た。て。ま。り。と。是。を。下。賜
 ら。び。怒。り。と。い。く。も。秀。吉。が。不。載。天。の。仇。と。ね。ば。斯。の。如。き
 造化。と。只。願。と。う。く。上。聞。願。ひ。さ。す。ま。つ。る。と。仔細。小。言。仕。る
 と。これ。ハ。晴。季。卿。送。せ。し。れ。これ。と。奏。聞。不。及。と。れ。り。小。這。時

後野青木のお。秀長と若入洛争。街。巷。地。の。相。と。看
 る。小。老。少。男。女。貴。賤。の。類。族。及。後。益。賊。と。齧。擬。び。右。性。左。性
 不。逃。恐。小。浩。ろ。所。へ。災。濃。守。人。數。を。率。ひ。さ。す。ま。れ。け。る。由。也。
 増。これ。小。駭。噪。ぎ。さ。り。や。款。よ。と。泣。叫。び。上。代。下。と。騒。動。さ。る
 小。ぞ。彌。会。湯。勤。会。働。切。か。け。と。是。ハ。羽。柴。筑。希。守。運。長。明。智
 日。向。守。あ。い。び。小。除。業。と。恙。く。山。崎。小。お。い。き。之。り。玉。一。歳。内
 へ。は。ま。り。安。寧。わ。る。く。別。て。京。都。ハ。憂。な。り。只。今。運。賊。退。治
 一。凱。陣。の。奏。聞。を。遂。羽。柴。家。母。と。今。日。より。京。都。と。守。護。し
 た。て。ま。れ。雨。門。維。を。怖。る。を。逃。惑。た。げ。し。鎮。ま。り。家
 業。と。大。持。こ。い。せ。ま。う。と。高。ら。う。呼。り。ま。れ。京。都。の。街
 民。大。母。歡。び。今。こ。を。安。途。苗。と。れ。染。く。京。都。の。守。護。さ。す



四海の至小成玉つべ枝も鳴さぬ所世ありきと権満しそぞ歡樂あり世
 小兒の慈母を慕ふが像く美帰の風相いらむは色その形
 らず羽葉ふら猶肺肝ふ思ふ多むむがし。安去佐和山坂を苦各
 敵後の在城せし。賊將光秀多くは是は州の地へまゝ。倘
 左馬助安土山城守佐和長閑坂本あど一等せむ落去の容易かゝる
 うゝは急ぎ軍と向し。堀久太師ふ余しむは州攻を指揮
 ありたる小を秀政異議ありこれを願受し直地し自勢一千八百有
 餘人家は奥村三在居尾長長安那奥村の産を冠近させは州當しを
 進發しし

繪本豊臣勲功記六編卷之五 終

